

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-253	15-321	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Effects of probiotics (cultured <i>Lactobacillus subtilis</i> / <i>Streptococcus faecium</i>) in the treatment of alcoholic hepatitis: randomized-controlled multicenter study. アルコール性肝炎の治療のプロバイオティクス(培養された <i>Lactobacillus subtilis</i> / <i>Streptococcus faecium</i>)の効果:無作為抽出多施設治験。		
執筆者		
Han SH, Suk KT, Kim DJ, Kim MY, Baik SK, Kim YD, Cheon GJ, Choi DH, Ham YL, Shin DH, Kim EJ.		
掲載誌		
Eur J Gastroenterol Hepatol.2015 Nov;27(11):1300-6. doi:		
キーワード		PMID:
アルコール性肝炎、腸内細菌叢、リポポリ多糖類LPS		26302024
要旨		
<p>背景 プロバイオティクスは、アルコール性肝炎(AH)患者で腸内細菌叢を回復することによって、腸由来の細菌性リポ多糖類(LPS)を減らすかもしれない。我々は AH を有する患者でプロバイオティクスの治療効果を評価した。</p> <p>患者と方法: 2010年9月から2012年4月の間に、117人の患者(プロバイオティクス60人とプラセボ57人)は、培養された <i>Lactobacillus subtilis</i>/<i>Streptococcus faecium</i> (1500mg/日)またはプラセボを7日間受けるために前向きに無作為割付された。すべての患者は入院して、本研究の7日間アルコールの消費は許されていない。肝臓機能検査、炎症誘発性のサイトカイン、LPS と便培養法によるコロニー形成単位を治療の後に調べ比較した。</p> <p>結果 両群において、AST/ALT、ALP、γ-GTP、ビリルビンとプロトロンビン時間の平均レベルは、7日目の断酒後に有意に改善された。プロバイオティクス群(ベースライン、そして、治療後)において、アルブミン(3.5 +/- 0.7と3.7 +/- 0.6g/dl, P=0.038)と腫瘍壊死因子TNF-α (121 +/- 244と71 +/- 123pg/ml, P=0.047)が、有意差を示した。加えて、大腸菌のコロニー形成単位数は、有意に減少した(435 +/- 287と168 +/- 210(P=0.002))。プラセボ群において、LPS(1.7 +/- 2.8と2.0 +/- 2.7濃縮ウラン/ml)のレベルは、有意に上昇した。グループ間の比較において、TNF-α (P=0.042)と LPS (P=0.028)のレベルの有意差が群間で観察された。</p> <p>結論 即時に断酒することは、AHの患者のための最も重要な治療である。 加えて、培養 <i>L. subtilis</i>/<i>S. faecium</i> の7日間の経口補給は、腸内細菌叢を復旧し、AHを有する患者におけるLPSの改善と関係していた。</p>		